

## 新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究 — 昭和戦前期の空間形成と利用実態について —

日本大学 学生会員 ○菊池 晃央 日本大学 正会員 岡田 智秀 日本大学 正会員 田島 洋輔

**1. 研究目的**；本研究は、東京ウォーターフロント（以下；WF）における持続可能な社会の実現に向けた示唆を得るため、これまでの東京 WF の利用用途や導入機能等の歴史的変遷を明らかにするものである。これまで本研究では、明治・大正期（1876～1926年）の東京 WF を対象に、新聞記事による文献調査より当時の東京 WF が担った機能や役割の変遷を把握したり、そこで本稿では、日中戦争の影響により利用用途や導入機能が急変した昭和戦前期（1927～1945年）の東京 WF における空間形成や利用実態の歴史的変遷を明らかにする。

**2. 研究方法**；本稿では、上述した目的を達成するために、表1に示す調査・分析を実施した。

**3. 結果および考察**；図1は当時の東京 WF の地図、表2は東京 WF の関連記事にみられた機能や役割の変遷を示したものである。以降はこれらを考察する。

**(1) 活用模索期（1927～1936年）**；この期は、1927年に東京港築港に向けた京浜運河開鑿（総延長 22.6km）と埋立地造成計画（630万坪）が決定されたことに始まる（写真1）<sup>2), 3)</sup>。この計画は、関東大震災（1923年）により陸上交通網が崩壊し、東京港の重要性が認識されたことで「港湾調査会」により決定されたものである<sup>2), 3)</sup>。しかし、1928年3月の「大森町の運河反対陳情（図1①）」などのように、大森町をはじめとする沿岸の漁業関係者や漁業組合から京浜運河開鑿に対する反対意見が多数みられた。また、1931年に入り、東京市15区と周辺郡部の合併協議が始まると、同年3月に「妙案の東京市庁舎敷地 市はたちまち成金 月島埋立地に建設（図1②）」などのように、東京市新庁舎を月島（現晴海）に移転する行政計画案が浮上した（写真2）。

表1 調査概要 [筆者作成]

項目	調査概要
期間	2021年10月1日～2021年10月31日（約1か月間）
対象	読売新聞のWebサイト「ヨミダス歴史館」（1874～2021年）の掲載記事
検索語彙	東京、ウォーターフロント、埋立地、海浜公園、海上公園、臨海公園、人工海浜、水辺、東京港、運河、親水空間、湾岸、臨海副都心、ベイエリア、臨海部、沿岸域以上16項目の語彙を用いて複合的に検索を行った。
分析手順	1)表1に示す検索語彙で抽出された記事（201件）のうち、東京WFの空間形成や利用実態などに関する掲載記事（54件）を抽出する。 2)掲載記事（54件）を対象に、東京WFに関する「空間形成」や「利用実態（WFでのイベント活動など）」を捉える。 3)それらが整備または実施された空間を「運河」「埋立地」「港湾」の3つに分類し、それぞれの空間的位置付けを明確化する。 4)新聞記事の掲載年月をもとに時系列に整理するとともに、社会背景や東京臨海部での出来事と照らし合わせて歴史的背景を考察する。

これは、東京を発展させるには今後も東京湾を埋め立て、土地造成を進めることが良いという考えがあり、そのために新庁舎は月島にあるべきと月島4号地に計画されるに至った。さらに、1931年9月の満州事変を契機に国際連盟を脱退（1933年）した日本は、国力を示すため東京 WF に国際的な文化空間の建設を検討することになる。具体的には、1932年12月の「芝浦埋立地に競漕コース 東京オリンピックに備え漕艇協会が市交渉（図1③）」や1935年8月の「万国博待つ月島の建設 草むらの埋立地に文明都市 費用4000万円（図1②）」などの記事がみられ、東京 WF はオリンピックや万国博覧会などの国際的な情報発信拠点としての期待がみられた（写真3）。また、1935年1月の「東京港祭。お台場ではかがり火。港内は不夜城（図1④）」など、東京港開港に向けた記事も多数みられた（写真4）。このように当期は、京浜運河開鑿や埋立地造成計画、東京市新庁舎移転計画、東京万博会場、東京港開港など、東京市の発展を目指した様々な空間形成に向けた期待や構想・計画がみられたものの、後述する日中戦争および太平洋戦争による労働力不足や資材統制を受け、それら取り組みのほとんどが1940年代に打ち切りとなる。

**(2) 軍事利用期（1937年～1945年）**；1937年の日中戦争開戦に伴い、日本では軍部の政治的発言力が高まったことで国内の軍事力拡充と軍事産業の強化が急務となった<sup>3)</sup>。これを受け、1937年4月の「芝浦から埋立地への架け橋（図1③）」や1939年11月の「東京港

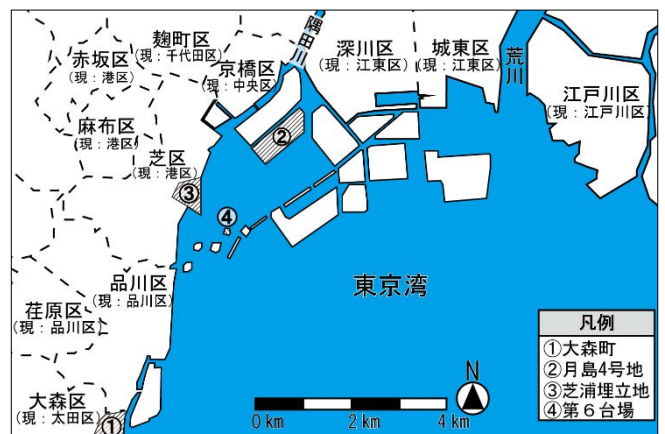


図1 昭和戦前期の東京 WF の地図 [筆者作成]

キーワード 東京ウォーターフロント、埋立地、歴史的変遷、空間形成、利用実態

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部まちづくり工学科岡田研究室 TEL03-3259-0484

開港に市会一致」など、産業拠点となる東京港築港計画や内陸部との交通網確保に向けた動きが加速した（写真5）。さらに、1939年7月の「潮に鍛えよ “海の道場” いよいよ生まれる」や、1943年1月の「さあ空地をもっと利用しましょう東京市が戦時農園開発団組織」などの記事から、軍事力の拡充に加え、戦時下の食糧確保のための農業用地として臨海部が利用されていた。

当時のWFへの期待、空間形成の変遷を明らかにした。その結果、当期の東京WFは、東京市の発展を目指し、多様な空間形成に向けた期待が検討されてきたものの、戦争に突入したことで軍事力拡充と軍事産業の強化が中心となっていた実態を捉えた。

参考文献：1) 染谷実優、岡田智秀、田島洋輔、栗本賢一、菊池晃史：「新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究 -明治期から大正期の空間形成と利用実態について-」, 第65回日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.263-264, 2021.12 / 2) 三井住友トラスト不動産 HP：「京浜運河開鑿計画と平和島の変遷」, <https://smtrc.jp/town-archives/city/omori/p06.html> (最終閲覧日：2021.11.15) / 3) 東京都港湾局：「東京港史 第一巻 通史各論」, 東京都港湾局 1992.10 (最終閲覧日：2021.11.15) / 4) 東京港運健康保険組合 HP：「東京港の歴史」, <http://www.koun-kenpo.jp/member/info/history.html> (最終閲覧日：2021.11.15)

4. まとめ; 本稿では、昭和戦前の東京 WF を対象に、

表2 東京 WF に関する新聞記事と WF の有する機能の変遷 [筆者作成]

期	年代	臨海部の出来事	運河	埋立地	港湾
近代化期 (1927~1936年) (35件)	1923年 関東大震災		1928.03.14 【漁業】 ● 大森町の運河反対陳情	1928.06.14 【余暇・文化】 ● 東京の誇り 3 郊外公園 水は砂町 3 万坪に 草花の公園 荒川に	
	1927年 京浜運河開鑿 計画決定		1928.04.09 【漁業】 ● 大森にて京浜運河反対 の町民大会	1928.12.10 【余暇・文化】 ● お台場を中心に海上公園	1928.06.20 【余暇・文化】 ● 釣り上げた魚に手料理の舌鼓 第3 お台場面目一新 7月1 日から解放東京
	1929年 月島4号地竣工		1928.04.18 【漁業】 ● 白たすきの6000名明治 神宮に祈願。京浜運河反対 運動の大森町民大挙	1931.01.13 【行政】 ● 月島4号地の飛行場不許可 出願者小栗氏へ	1930.09.19 【行政】 ● 埋立地の発展策 市の臨時市政調査会で協議
	1931年 満州事変		1928.08.08 【漁業】 ● 京浜運河埋立の期成同盟 成る 漁民と反対の見地	1931.03.22 【行政】 ● 妙案の東京市庁舎敷地 市はた ちまち成金 月島埋立地に建設	1931.03.03 【行政】 ● 帝都に飛行場 深川埋立地を小栗氏に許可
	写真1 京浜運河計画平面図 <sup>2)</sup>		1932.09.07 【交通】 ● 江東に運河、横十間川 終点から品川湾へ	1931.06.26 【余暇・文化】 ● 専修大学の総合グラウンド 月島埋立地に建設	1931.03.22 【余暇・文化】 ● 深川埋立地に海水大プール 失 業者野宿者救済をかねて東京市が 親切に大乗気
	1931年 京浜運河開鑿 計画決定			1932.12.21 【余暇・文化】 ● 芝浦埋立地に競漕コース 東京オリンピックに備え漕艇 協会が市交渉	1930.08.13 【産業】 ● 東京港築港第2期事業。 財源次第で明年度から着工
	1933年 国際連盟 脱退			1933.10.18 【余暇・文化】 ● 美と欲の平行線 素晴らしい 臨港都市 大博覧会はここで 開く/東京	1931.07.14 【産業】 ● 東京港の修築、近く工事に 着工。失業者救済 50 万人
	1933年 東京市合併 市議会合意			1933.11.22 【余暇・文化】 ● 東京オリンピックは月島埋立 地で 市第一候補に推す	1933.01.13 【産業】 ● 横浜が東京港修築推進を陳
	1933年 東京港 修築計画			1935.02.22 【余暇・文化】 ● 15 万人収容する世界一の総合運動場 オリンピック招致が決定すれば月島に建設	1935.01.19 【余暇・文化】 ● 東京港際、お台場ではかがり 火。港内は不夜城。
	写真2 東京市庁舎パース <sup>2)</sup>			1935.08.04 【余暇・文化】 ● 万国博待月島の建設 草むらの埋立地に文明都市 費用 4000 万円	1935.03.04 【余暇・文化】 ● 帝都、海の大玄関に港まつりの前奏
	写真3 幻の日本万国博覧会 <sup>2)</sup>			1935.10.05 【軍事】 ● 歓迎！我ら無敵艦隊。今 日の東京港開港の威容	1935.03.22 【余暇・文化】 ● 港まつり。芝浦の岸壁に「海 の護り」展も開く
	写真4 東京みなと祭 <sup>4)</sup>				1935.03.31 【余暇・文化】 ● あす、港まつり。催しいろいろ
					1935.04.02 【余暇・文化】 ● 爆竹と篝火。港は不夜城。壁 岸と日比谷に歓声
					1935.04.02 【余暇・文化】 ● 大東京の玄関に揚る。港まつりの歓
					1935.06.27 【軍事】 ● 水上でも防空陣、大々的に参加
				1935.07.03 【軍事】 ● 東京港を護る。防空演習に水上防護	
				1936.12.27 【余暇・文化】 ● 京浜運河に沿って生々した緑 大地。健康的な工業地を実現	
軍事利用期 (1937~1945年) (19件)	1937年 日中戦争		1937.04.21 【交通】 ● 芝浦から埋立地へ架け橋	1937.06.13 【交通】 ● 芝浦埋立地を市が売りに出す 6号地に幹線道路を開設	1937.01.31 【産業】 ● 東京港反対をヨット協会が宣言
	1938年 太平洋戦争		1938.08.10 【軍事】 ● 市民道場 10 万円で3か所 に/東京	1939.06.18 【交通】 ● 日本一の国際空港 砂町沖海面埋立 いよいよ来月工事開始 場内の緑地は解放	1938.05.04 【産業】 ● 東京開港運動に今度こそ 乗気。どう動く横浜の阻止
	1941年 太平洋戦争		1941.05.02 【漁業】 ● 海苔取り600年 感無量の業者	1939.07.04 【軍事】 ● 「潮に鍛えよ “海の道場” いよいよ生まれる▽ひらく海の夏期大学	1939.02.27 【軍事】 ● 躍進東京港の大艦隊軍譜。力強 い出船の汽笛。動く興旺の物資
	1941年 東京港開港			1940.11.28 【軍事】 ● 初の海軍道場 10 万円で3か所に 帝都と香川に	1939.07.22 【軍事】 ● 敵機執拗に襲来！都心修羅場を現 出。東京港にも爆弾投下/防空訓練
	1943年 京浜運河開鑿 中止			1942.09.13 【農業】 ● 2 万坪を開墾し全区の野菜自給 蒲田で68町会が大馬力東京	1939.11.17 【産業】 ● 東京開港に市会一致
	1943年 東京市が戦時農園 開発団組織			1943.01.26 【農業】 ● 「さあ空地をもっと利用しましょ う 東京市が戦時農園開発団組織	1940.03.01 【商業】 ● 東京港へ初の客船
	1945年 終戦				1940.12.09 【産業】 ● 東京開港に猛反対。横浜市民大
					1940.12.21 【産業】 ● 東京開港解決へ歩寄る。 横浜市代表との会談続行
					1941.03.20 【産業】 ● 東京・高幡間定期航路開く
					1941.05.23 【余暇・文化】 ● 東京港の披露。後楽園盛宴